

がくじゆつろんせつ かた こうぎ 学術論説の型-講義

1 導入

この講義の核心は、学術・論説の英文では、正しい情報を並べるだけでは足りず、「どの程度まで断定するか」「根拠をどこに置くか」「条件や限界をどう差し込むか」を文体として設計する必要がある、という点にある。REG と CLS はここで分離できず、主張の強さと主節の置き方が同時に自然さを決める。

2 中心課題

なぜ This proves that … は強すぎることもあり、These findings suggest that … のほうが自然なのか。なぜ日本語で先に置かれた背景情報をそのまま主節にしないほうがよいのか。

3 用語

- {hedging}: 断定を少し弱め、主張の強度を調整する表現
- {claimの強度}: 結果がどこまで言えるかという主張の強さ
- 証拠提示: 結果・根拠・解釈をどの順序で示すかという設計

4 方針

1. 主張を1文で言い切る前に、その強度を決める
2. 結果、根拠、条件を同列に置かず、主節と背景句に分ける
3. 学術では、断定より suggest、indicate、may のような調整語を優先する

5 直感的な説明

学術・論説の英語は、「正しいことを強く言う」ことより、「どこまで言えるかを適切な強さで示す」ことを重視する。だから研究結果を見て、すぐに prove や show conclusively と言い切ると、文法は正しくても文体として強すぎることもある。

Display

強すぎる

This proves that the policy is effective.

標準的

These findings suggest that the policy may be effective.

また、日本語では「この結果から」「以前の研究を踏まえると」のような背景情報が文頭に長く出ても自然だが、英語では主節に早く到達できるほうが読みやすい。ここでも REG と CLS が接続する。

6 厳密な説明

6.1 1. 主張の強度を調整する

学術・論説では、証拠の範囲を超えて言い切らないことが重要である。

強度	代表表現	使い所
強い断定	prove, demonstrate conclusively	十分な証拠がある場合
標準的	suggest, indicate	多くの研究報告
慎重	may suggest, appear to indicate	限定や不確実性がある場合

6.2 2. 根拠は背景化し、主張は主節へ置く

論説で読み手が最初に知りたいのは、何が言いたいことかである。そのため、根拠や先行研究は Given …、Based on …、In light of … のような背景句へ下げ、主張そのものを主節に置く。

6.3 3. 名詞化と外置で重さを調整する

日本語の「～ことは」「～という可能性」をそのまま英訳すると、文頭が重くなりやすい。そこで the possibility that …、it is difficult to …、the need for … のような型へ置換すると、論説の調子が安定する。

7 最小の具体例

7.1 例 1: 慎重な主張

Incorrect

This proves that the intervention works for all students.

Correct

These findings suggest that the intervention may be effective for a wide range of students.

証拠の範囲を超えないように、主張の強度を下げている。

7.2 例 2: 背景化

Incorrect

From these previous studies, that the current policy needs revision is understood.

Correct

Based on previous studies, the current policy appears to require revision.

背景は前置しつつ、主張は the current policy appears to require revision として主節へ残している。

8 別の見方

8.1 論理構成として把握する観点

学術文体は語彙の硬さだけでなく、論理をどの順番で提示するかの問題として理解すると安定しやすい。

8.2 編集の技術として把握する観点

初稿を直すときは、単語の置換より、断定の強さ、背景の位置、名詞化の有無を編集する意識が有効である。

9 見分け方

- prove, must, clearly shows が多いときは強すぎないか確認する
- 背景情報が長く、主節が後ろへ押されているときは CLS を疑う
- 日本語の「～こと」「～という可能性」が重い主語になっているときは、名詞化や外置を検討する

10 どこまで成り立つか

この講義は標準的な学術・論説文体を対象としている。分野ごとの慣行や、雑誌ごとの文体差までは扱わない。

11 最終形

Display

学術論説の基本

1. 主張の強度を決める
2. 根拠を背景化する
3. 主張を主節へ置く
4. 名詞化と外置で重さを調整する

12 一言でいうと

学術論説の型とは、正しいことを強く言う技術ではなく、どこまで言えるかを適切な強度と配置で示す技術である。

13 かんれん 関連リンク

→ 講義 レジスターの基本 lecture english register
<https://study.bem130.com/lecture/english/register/>レジスターの基本-講義/

→ 講義 複文の情報設計 lecture english clause
<https://study.bem130.com/lecture/english/clause/>複文の情報設計-講義/

→ 講義 定型句と語彙バンドル lecture english collocation
<https://study.bem130.com/lecture/english/collocation/>定型句と語彙バンドル-講義/

→ 問題演習 論説リライト exercise english register
<https://study.bem130.com/exercise/english/register/>論説リライト-問題演習/

→ 定石集 要旨英作定石 reference english register-guide
<https://study.bem130.com/reference/english/register-guide/>要旨英作定石-定石集/

→ 問題演習 要旨英作と要点圧縮 exercise english register
<https://study.bem130.com/exercise/english/register/>要旨英作と要点圧縮-問題演習/